

樹里安だより

1997年
12月
Vol.3



ちゅうやまつ（昼夜松）

葉の束を上から見ると枯れたように白く見える。

葉の下方は緑色、上半白色となる。

埼玉県安行で命名された流行品だが以上何らかの
変種に入ると思う。

(上原敬二著・樹木大図説より) 写真協力・株好樹園

川口市保存樹木を訪ねて その3

クロマツ

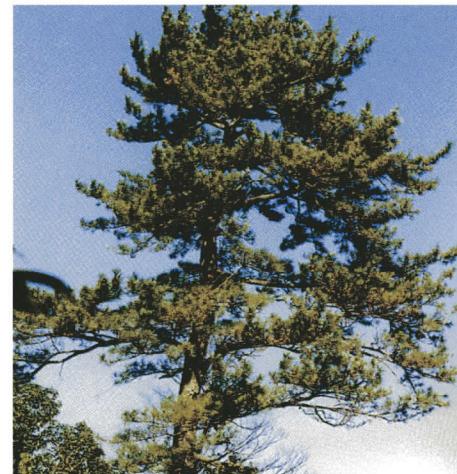
日本の国になくてはならないもの、桜と並んで親しまれてきたのが松である。それもクロマツ（オトコマツ）である。 木村 四郎

常盤なる松のみどりも春くれば
いまひとしおの色まさりけり（古今集）

松はめでたいもの、節操高いものすなわち瑞木であり、百木の長である。日本の文化・芸能・生活のあらゆる面に、松くらいはいりこんでいるものも少ないのでない。記紀神話に始まり、能・歌舞伎舞台の背景から、寺院障壁画あるいは水墨画に詩歌に日常行事、神事にとマツの果たしてきた役割ははかりしれない。油脂分が多いので大昔から燃料・照明用としても重用されてきた。タイマツのことを「松明」と書くのもなるほどとうなずける。信仰の世界においても、神靈のヨリシロとして松の木を選ぶ場合が多い。年の神を迎える正月の門松はやはり、クロマツの力強い枝でなければならない。

クロマツは葉が長く強剛で、樹皮は厚い黒褐色で荒々しく力強い感じである。白砂青松といわれる日本の海岸の代表的風景は、潮風にも負けないクロマツが主役である。清水市の三保の松原、唐津の虹の松原や、三本松、五本松などの地名、あるいは各地に残る松並木、たとえば東海道豊川の御油の松並木、草加の松並木など名勝および天然記念物に指定されているところが多い。名の知られた名木・古木も各地に見られる。遠く中国の各勝地、黄山の岩山をひきたてているのもクロマツである。

さて、加藤氏宅地のクロマツであるが、幹の周り約1.3m、樹高は16m余なかなか立派なものである。昔はこの付近にもたくさんあったという



安行原730 加藤耕作氏宅

ことであるが、今はこの樹と密蔵院に残る一本だけになってしまった。同じような大きさなので、密蔵院の縁起からこの松の手がかりがつかめるかも知れない。すなわち文明元年（1469）法印永海の開山で、門前に松の並木があったという。（川口市史より）室町時代のころからだからざっと五百年も昔のこと、したがってこの松もそれくらいは経っているのだろうか。加藤氏の話しによると、子供のころもやっぱりこのぐらいの大きさだったという。戦時中には、松の油を探るため樹皮に傷を入れて、ちょうどゴムの木から汁を採るような具合に採脂したのだそうだ。飛行機や軍艦を動かすガソリンの代用にするためである。松根油といって松の根を掘り起こし、細かく碎いて釜で煮出していたのを見た記憶があるが、切り倒されなくてよかった。松にとっても日本にとってもつらい時代であったと思う。今では採油の傷とともにほとんどわからないくらいに回復していた。それだけ成長している証拠であろうか。

やや東南に傾いたこのクロマツも、壯年期にさしかかっていると思われるが寿命の長い木のこと、これから何年生きるか予想もできないが、葉のつや、幹の健康状態はとても良好である。車の排気ガスや酸性雨にも負けずに頑張ってほしいものである。

松風の音さわやかに里の秋

我が国で、緑化樹として利用されている樹木は、およそ300種余りあるといわれています。その中から代表的なものを、それぞれの特徴によりわけてみました。

実の美しい木

樹木の実には、花と違った良さがあります。美しい実をつける樹木の中からおもなものを選んでみました。



キンカン

紅・赤色系

アオキ、マンリョウ、ウメモドキ、ガマズミ、クコ、ザクロ、サンゴジュ、センリョウ、ソヨゴ、ニシキギ、モチノキ、ナンテン、トベラ、ベニシタン、ゴンズイ、イイギリ、タラヨウ、ナナカマド。



ナンテン

黄・橙色系

イチョウ、ユズ、ビワ、カキ、ピラカンサス、クサボケ、カラタチ、クチナシ、キミノウメモドキ、キミノセンリョウ。

紫・青色系

アケビ、ムラサキシキブ、イチジク、ムベ、ルリミノキ。

実もの植物に実をつけるコツ

肥料

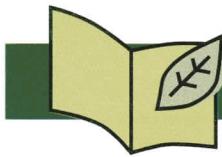
葉がツヤツヤし、木ばかり大きくなつて実がつかない場合は、窒素肥料過多です。一年肥料を休んでみましょう。

剪定

切り込みすぎて、実のつかない場合があります。おおくの花木は、花が散つてから初夏までに翌年の花芽ができます。ですから、花期のすぐ後の翌年の花芽ができる前に枝を切りつめて下さい。花が咲かなければ実もなりません。

かん水

水のやり過ぎは、実がつかないといわれますが、花芽のできる時期には、水を控えめに与え、花芽ができたら水をたっぷり与えるようにします。



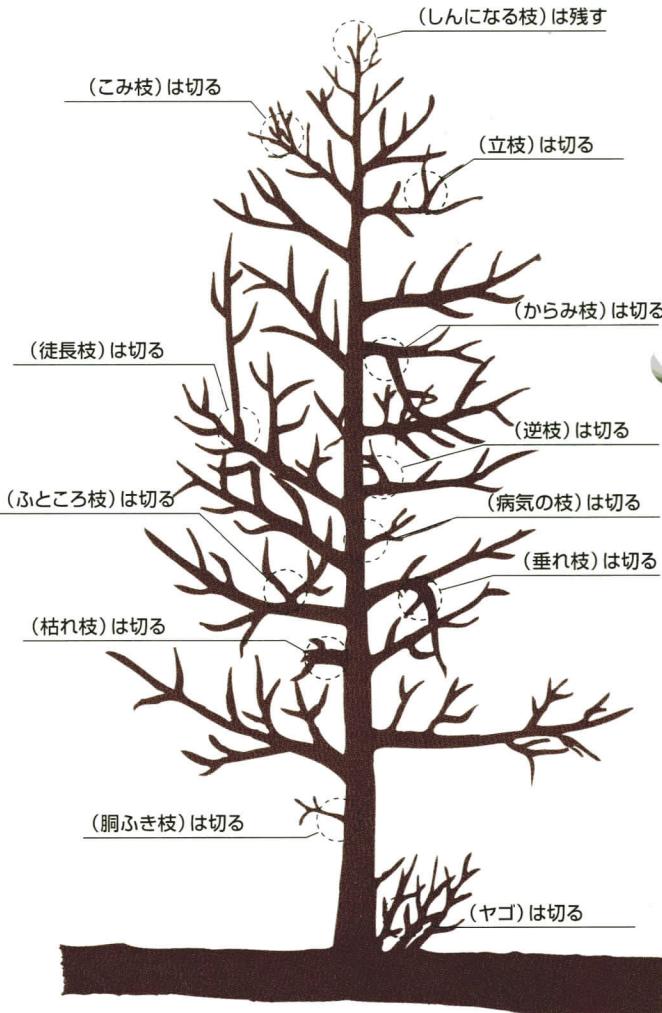
剪定と整枝の基本

樹木の剪定、整枝を行うには傷口のゆ合の早い休眠期から萌芽直前までと、夏季が適しています。一般に、強度の剪定は冬季に、常緑広葉樹は冬季を避けて、台風などの被害にあいやすい樹木は夏期に行います。

剪定・整枝の目的

1. 樹形を整えます。
2. 均整のとれた生育を促します。
3. 花や実の結着をよくします。
4. 病虫害の被害をふせぎます。
5. 樹木の更新、若返りを図ります。

せん定・整枝の基本



- (1) 頂枝（シン）は一つにします。
- (2) 病虫害のある枝葉は切り捨てます。
- (3) 徒長枝、胴ふき、ヤゴなどは、樹勢を衰弱させるので切れます。
- (4) 逆枝、垂れ枝、からみ枝は切れます。
- (5) 対生枝、車枝はなるべく整理し互生にします。
- (6) 平行枝は、なるべく整理します。
- (7) 枝を同一方向にばかり向けないようにします。
- (8) 強い枝は短く、弱い枝は長く残すように切れます。
- (9) 毎年枝の同じ位置で切らないようにします。

竹・笹・バンブーの分け方

竹・笹・バンブーの分け方

成長すると皮が脱落するものが「たけ」。皮が腐るまで脱落しないものは「ささ」。ほとんど地下茎がなく群がって生える熱帯産のものを「バンブー」と大きく3つに分けています。

アジアを中心とした熱帯地域で生育しています。中には直径が30cmにもなるゾウタケやつるになって伸びるツルタケなど珍しい種類もあります。また、竹は生長が早い。病気や害虫に強い。或いは弾力性に富むなどといったすぐれた特性があるから人々の暮らしの中で昔から利用されてきました。

世界の変わったタケの利用法 建築材として

インドネシアのスラウェシ島では屋根から床まで竹を使った家屋があります。エチオピアでもツクールと呼ぶ、かごのような竹の家を作っています。

楽器として

日本の尺八も竹製ですが、南米のケーナもカーニャというバンブーで作ります。インドネシアのアンクルンやジュゴクも竹で作った打楽器です。

織機

タイ北部ではタケを細く割って織機に利用しています。

食用として

台湾ではモウソウチクのたけのこを乾燥し粉状にして小麦粉と混ぜ、ビスケット状のものを作ります。



ツルチク（蔓竹）

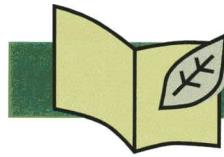
イネ科 原産地 タイワン南部

稈径0.5~5.0cmで蔓性である。横這い、あるいは樹木に巻き付きます。樹勢強く、葉は15~30×3cmぐらいである。籠その他の工芸品、観賞用に植えられる。

たけのこの成分

たけのこは歯ざわりが良く、味も楽しめ、纖維質に富み、栄養分も豊富です。

たけのこの美味しさはアミノ酸の一種チロシンですが、掘って時間が経つとこれが酸化によってえぐみが強くなっていくのです。



植物用語解説 シリーズ3

○宿根草（しゅっこんそう）

宿根草とは元来冬期地上部が枯死し、根株だけが地下に残り翌年それからまた発芽してくる草花をさしています。

草本のうち、植物学上の多年生植物から、球根植物やラン類、サボテンと多肉植物など特殊なグループをのぞいたものを、園芸的に宿根草と呼んでいます。



○球根植物（きゅうこんしょくぶつ）

多年生植物のうち、地下または地際が肥大して養分を貯えた貯蔵繁殖器官を球根と総称しています。球根を植え付ける季節によって、秋植え球根（あきうえきゅうこん）と春植え球根（はるうえきゅうこん）に区別されます。

(1)鱗茎は養分の貯蔵器官の葉が肥大してできたもので、チューリップ、スイセン、ヒアシンスなどのほか、非常にたくさんの種類があります。

(2)球茎とは茎が球状に肥大して養分の貯蔵器官となり、葉の基部が乾燥して皮となったものです。グラジオラス、フリージア、クロッカス等があります。

(3)塊茎とは茎が肥大して養分の貯蔵器官となったものであるが球茎とは異なり葉の変化した皮はありません。シクラメン、アネモネ等があります。

(4)根茎は根が養分の貯蔵器官となっているものでカンナ、ジンジャー、カラーラー等があります。

(5)塊根は根が養分の貯蔵器官となったものでダリアの球根が代表的であります。

球根は以上のように分かれますが、明らかに球根を有するものでも宿根草として扱われるものは一般に球根類には入れず宿根草とする場合があります。



川口緑化センターの主なイベント報告

3

♣コニファー展 (6月6日～9日)

※建築様式、生活習慣により、緑花材料も多種多様な種類が利用されています。葉色が豊富で自然樹形の良い、コニファー（針葉樹）の展示販売を行い知識の向上、普及及び販路拡大を図りました。



♣緑の学会 (9月14日)

※自然環境を考え、緑花を大切にするきっかけ作りを行うため、アウトドアの達人といわれる清水國明氏を招いて、講演会を開催しました。



♣地域交流事業 (10月19日)

※道の駅「川口・あんぎょう」・川口緑化センターを中心に地域交流事業を展開し、それぞれの地域の活性化を図るため、特産品販売、観光案内等を行いました。



♣園芸ゼミナール（講演会）(10月14日)

※植物や園芸作業をする事によって精神的、身体的な成長・発達を成し遂げる手段として、シカゴ植物園より講師を招いて、園芸療法の講習会を開催しました。



♣第6回緑と大地の豊年まつり (11月1日～2日)

※時代と共に変りゆく農業を新たな視点でみつめて、都市と農業の交流と共栄を考えようと開催しました。

※この他にも、各種園芸教室や産直販売などを実施しました。平成10年度も多く多くのイベントを行いますので、ご家族揃ってご来場下さい。



緑化アラカルト

安行植木のおこり 4大植木生産地（伝統的植木生産地域）

- (1)安行（川口市） 川口市戸塚・神根・新郷地区を含む。広義では鳩ヶ谷市・浦和市・大宮市・岩槻市等まで。
- (2)稻沢（愛知県・稻沢市）
- (3)細川（大阪府・池田市） 山本（兵庫県・宝塚市）
- (4)久留米・田主丸（福岡県・久留米市・田主丸町）

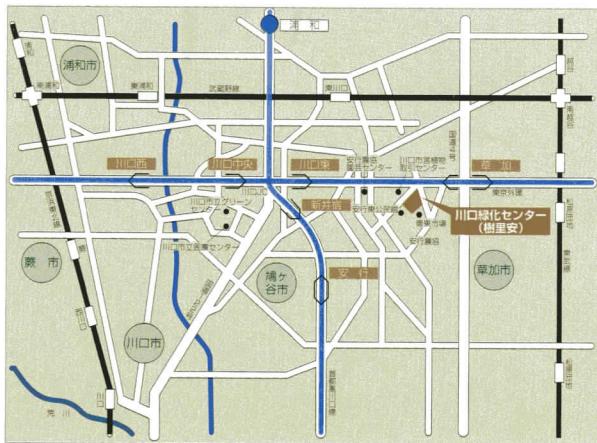
ご存じですか 川口名産

八ツ頭（ヤツガシラ） お正月や祝い膳などめでたい料理に欠かせない八ツ頭。

その名から「人の頭になるように」と希いをこめ、あるいはまた八ツ頭は一つのイモから沢山の芽が出ることから「芽出たい」といわれて喜ばれてきました。

この八ツ頭、埼玉、千葉、茨城、栃木が日本の四大産地。とりわけ川口市の神根周辺でとれるものが有名です。

八ツ頭にはその名通り八つの発芽面があるはずだが、実際には八つというのは少なく七つから五つくらいが多いといわれます。



発行日
9年12月1日
発行
財団法人川口緑化センター
川口市安行領家844-2
TEL.048-296-4021
「道の駅」川口・あんぎょう

ホームページ : <http://www.sainet.or.jp/~jurian/>